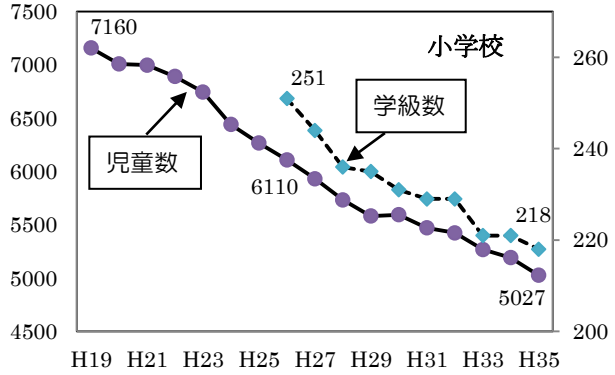
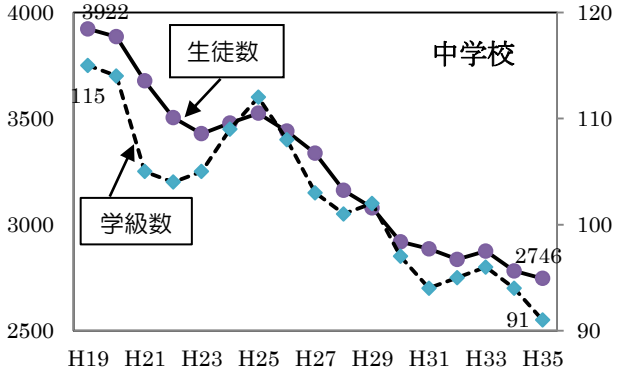
# 奥州市立小・中学校の適正規模の在り方と学校再編について

## Ⅰ　奥州市の小中学校の現状と今後の見通しについて

### 1　全体の状況




### 2　学校ごとの状況

| 小学校 | H29 学級数 | 児童生徒数 H29 | 児童生徒数 H35 | 児童生徒数 増減 | 備　考 | 小学校 | H29 学級数 | 児童生徒数 H29 | 児童生徒数 H35 | 児童生徒数 増減 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水　沢 | 19 | 617 | 591 | -26 | | 前 沢 | 22 | 708 | 514 | -194 | |
| 水沢南 | 20 | 626 | 664 | +38 | | 胆沢一 | 12 | 358 | 270 | -88 | |
| 常　盤 | 21 | 609 | 678 | +69 | | 南都田 | 8 | 212 | 173 | -39 | |
| 佐倉河 | 10 | 245 | 244 | -1 | | 若 柳 | 6 | 120 | 90 | -30 | |
| 真　城 | 10 | 249 | 210 | -39 | | 胆沢愛宕 | 5 | 47 | 35 | -12 | 複式１ |
| 姉　体 | 6 | 200 | 209 | +9 | | 衣 川 | 6 | 94 | 86 | -8 | |
| 羽　田 | 6 | 116 | 110 | -6 | | 衣 里 | 6 | 76 | 68 | -8 | |
| 黒　石 | 4 | 42 | 32 | -10 | 複式２ | | | | | | |
| 岩谷堂 | 18 | 591 | 520 | -71 | | 中学校 | | | | | |
| 江刺愛宕 | 9 | 243 | 205 | -38 | | 水 沢 | 16 | 497 | 391 | -106 | |
| 田　原 | 4 | 42 | 55 | +13 | 複式２ | 東水沢 | 14 | 424 | 375 | -49 | |
| 大田代 | 3 | 16 | 26 | +10 | 複式２ | 水沢南 | 18 | 589 | 570 | -19 | |
| 藤　里 | 5 | 60 | 34 | -26 | 複式１ | 江刺一 | 17 | 517 | 479 | -38 | |
| 伊　手 | 6 | 55 | 34 | -21 | | 田 原 | 1 | 4 | 7 | +3 | 複式１ |
| 人　首 | 3 | 26 | 18 | -8 | 複式３ | 江刺南 | 3 | 72 | 52 | -20 | |
| 木細工 | 2 | 8 | 4 | -4 | 複式１ | 江刺東 | 3 | 94 | 91 | -3 | |
| 玉　里 | 5 | 54 | 29 | -25 | 複式１ | 前 沢 | 12 | 351 | 364 | +13 | |
| 梁　川 | 4 | 45 | 28 | -17 | 複式２ | 胆 沢 | 13 | 420 | 349 | -71 | |
| 広　瀬 | 5 | 51 | 33 | -18 | 複式１ | 衣 川 | 5 | 111 | 74 | -37 | |
| 稲　瀬 | 6 | 72 | 67 | -5 | | | | | | | |

※　網かけした小学校は、学級担任外の教員の配置がない学校。

※　網かけした中学校は、全ての教科の教員が配置されていない学校（配置されていない技能教科は非常勤講師が巡回して指導）

## Ⅱ　奥州市立小・中学校適正規模検討委員会の設置の趣旨等について

≪検討委員会設置の趣旨≫

●児童生徒数の減少
　→小規模校、過小規模校の増加
●学校間の児童生徒数、学級数の差の拡大

→

●学校運営上の支障
・教育活動の実施が困難
・教員の十分な配置が困難

↓

児童生徒にとって平等で充実した教育環境を整えること、また、そのために充実した指導体制を整えることが必要。

↓

基本的な考えをまとめよう！

保護者の考えを聞こう！

小・中学校適正規模等検討委員会の設置

≪検討委員会の活動（協議・検討事項）≫

○ 学校再編基本計画の見直し
○ 様々な規模の学校の視察
○ 適正規模に関する保護者アンケートの実施
○ 地域住民との懇談会の実施

適正規模、小規模の学校の様子を見よ

地域の皆さんの考えを聞こう！

## Ⅲ　小・中学校再編基本計画（見直し案）の概要

### 1　適正規模の基本的な考え方

| 学校規模 | 過小規模 | 小規模 | 統合の場合の適正規模 | | 大規模 | 過大規模 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 適正規模 | | | |
| 学級数 | １～５ | ６～１１ | １２～１８ | １９～２４ | ２５～３０ | ３１以上 |
| 基本的な考え方 | 過小規模校 | 許容できる規模（下限） | 適正規模 | 許容できる規模（上限） | 大規模校 | 過大規模校 |
| 児童生徒数 | | 小 112 人～<br>中 108 人～ | | | | |

※小学校：最低限６学級 90 人以上の規模の確保

### 2　適正な通学距離

市内の小中学校の適正な通学距離は国の規定の倍程度とし、小学校では 8km 程度、中学校では 12km 程度を上限とすることを基本とする。

### 3　適正な通学時間

市内の小中学校の適正な通学時間は、国の示す基準と同様に「おおむね１時間以内」とすることを基本とする。

## Ⅳ　検討委員会委員による学校視察から

### １　視察校

小・中学校それぞれ「適正規模の学校」と「小規模の学校」を１校ずつ計４校を視察。

### ２　視察内容

（１）授業の様子を参観
（２）校長先生との懇談（それぞれの学校のよさと課題について）

### ３　それぞれの学校の様子（○：よさ　●：課題）

**Ａ小学校（適正規模の学校）**

- １学級 30 人前後の児童数で各学年３学級。３年生と５年生進級時にクラス替え。特別支援学級５学級。
- 教員数 30 人（学級担任 21 人、担任外は９人　※校長・副校長を除く）
  他に養護教諭１人、支援員等５人など

○ 学び合いによる授業、運動・音楽の課外クラブの活動
● 30 人を超える学級の児童への指導

**Ｂ小学校（小規模の学校）**

- １学年 1～9 人、全校児童 26 人。複式学級３学級。
- 教員数３人（学級担任３人、担任外はなし　※校長、副校長を除く）他に養護教諭１人（隣接校と兼任）、非常勤講師１人。

○ 少人数のよさを生かしたきめ細かな指導、地域との連携
● 友人関係の固定、考えの交流が困難

**Ｃ中学校（適正規模の中学校）**

- １学級 30 人前後の生徒数で各学年５～６学級。２年生進級時にクラス替え。特別支援学級３学級。
- 教員数 31 人（学級担任 18 人、担任外は 13 人　※校長・副校長を除く）
  他に養護教諭２人、支援員４人など

○ 生徒の学び合い、教師間の学び合い。組織的取組による学習指導、生徒指導。
● 通常学級における特別支援教育。

**Ｄ中学校（小規模の中学校）**

- １学年 1～3 人、全校生徒４人。H29 は１年生の入学なし。
- 教員数３人（学級担任１人、担任外２人。※校長・副校長を除く）
  校長、副校長も教科を担当、技能教科は他校も巡回する非常勤講師が担当。

○ 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導。
● 活動の制約

**≪視察した委員の感想（抜粋）≫**

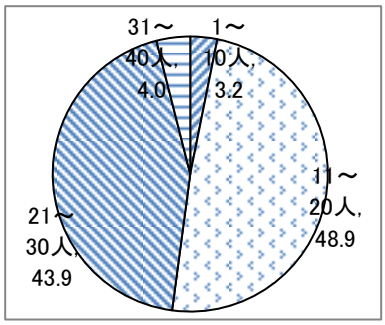
① 適正規模校に対して
○物的環境が整備され、また加配教員等の人的環境にも恵まれている。
○机の配置の工夫により、生徒同士の学び合いが自然な形で行われている。
●児童数が多く、教室が狭く感じた。
●先生が児童生徒一人一人の学習の様子を把握するのは大変そうである。

② 小規模校に対して
○子どもと先生が仲良く学習していてよい。一人一人を生かせる。
○マンツーマンに近い形で、丁寧に指導している。
●複式は２学年分を先生が準備、児童は半分が自習。先生も児童も大変である。
●人間関係を築くこと、多様な考えに触れることができず、かわいそうである。

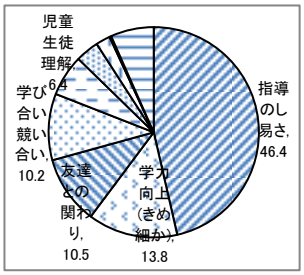
# Ⅴ　保護者アンケートの結果

## 1　小学校の学級の適正規模

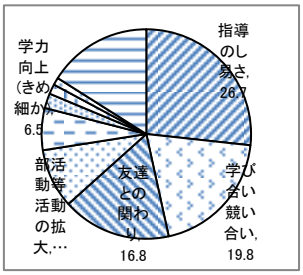
（1）適正と考える学級規模　（2）適正と考える理由




ア　11～20 人




イ　21～30 人



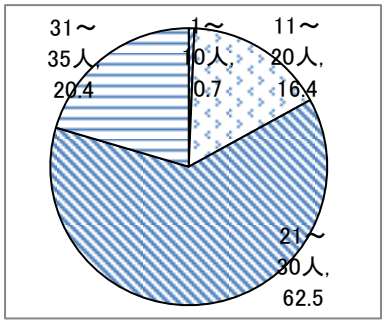

○　20 人以下と 21 人以上がほぼ半々の結果。現在の地域の学校の状況がよいと感じている保護者と課題を感じている保護者が半々の状況。

○　理由には、教員の指導のし易さ（目が届く）を挙げる割合が高いが、目が届く人数の捉え方はまちまちである。

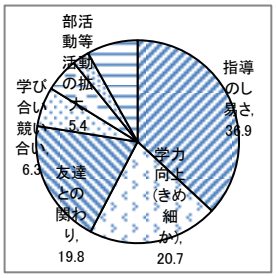
○　一定規模の中での学力向上、学び合い、友達との関わりを望む声が多い。

## 2　中学校の学級の適正規模

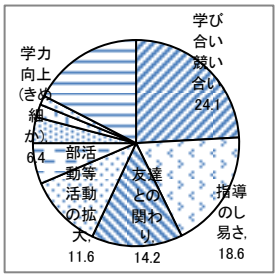
（1）適正と考える学級規模　（2）適正と考える理由



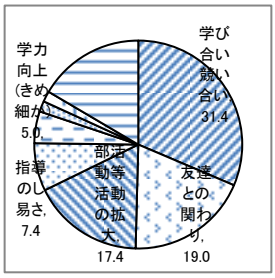

ア 11～20 人




イ 21～30 人




ウ 31～35 人

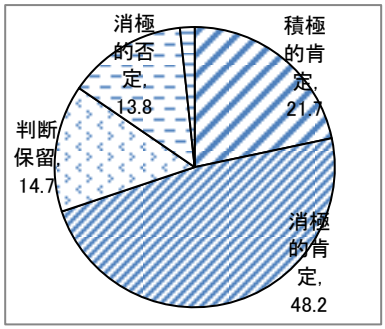



○　全体は、小学校と比較し、21 人以上の規模を適正とする意見が多い（約 83%）。

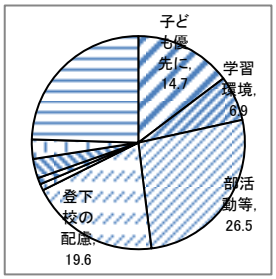
○　小学校に比べると、教員の指導のし易さを望む意見の割合は低く、学び合い・競い合い、友達との関わり、部活動の充実を望む意見が多い。

## 3　適正規模による学校再編に対する考え

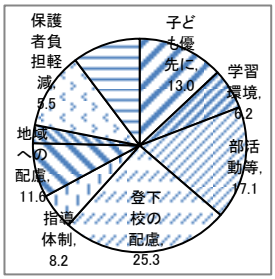
（1）学校再編に対する考え　（2）考えの理由



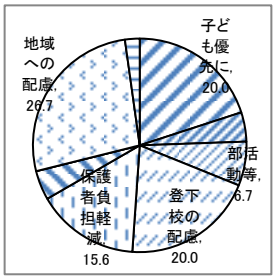

ア 積極的肯定




イ 消極的肯定




ウ 消極的否定




○　全体は、適正規模に基づく学校再編を求める意見が約 70%である。それに対し、再編に否定的な意見は約 15%である

○　肯定的意見の理由は、部活動の充実が多い。否定的意見の理由は、地域への配慮が多いのが特徴である。子どもを第一に考えること、登下校の配慮は、肯定・否定両方で挙げられている。